

## 論文審査の結果の要旨

氏名：萩原 謙

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Prevalence of preoperative asymptomatic deep vein thrombosis in patients undergoing elective general surgery for benign disease

（一般外科手術を受ける良性疾患患者における術前の無症候性深部静脈血栓症の有病率）

審査委員：（主査） 教授 田中正史

（副査） 教授 奥村恭男 教授 鈴木孝浩

教授 副島一孝

本研究は一般外科手術を予定し、深部静脈血栓症（DVT）の術前スクリーニングとして下肢静脈超音波検査を術前8週間以内に施行された1512例を対象としてDVTの有病率、リスク因子を検討したものである。

結果として1512例のうち、161例（10.6%）が術前に無症候性DVTを有しており、単変量解析では高齢（70歳以上）、女性、BMI（ $<25 \text{ kg/m}^2$ ）、白血球数（ $<5.8 \times 10^3/\mu\text{L}$ ）、貧血（ $\text{Hb} < 11.8 \text{ g/dl}$ ）、悪性疾患、化学療法、中心静脈カテーテル、癌の既往、高血圧、喫煙が有意なリスク因子として同定され、多変量解析では、高齢（70歳以上）、女性、貧血（ $\text{Hb} < 11.8 \text{ g/dL}$ ）が術前の無症候性DVTと有意に関連していたが、悪性疾患は独立したリスク因子にならなかったことを示した。

以上から一般外科手術を予定された症例では術前の無症候性DVTの有病率は高く、良性疾患患者においても、悪性疾患患者と同様にその有病率が高いことが示され、良悪性にかかわらず特にリスク因子を持つ一般外科患者では術前に無症候性DVTを有する可能性を念頭に置いた対応が必要であると結論づけた。

本研究は、すでに *Annals of Gastroenterological Surgery* (2023) に掲載されており学術的にも評価は高く、一般外科手術における術前DVTスクリーニング検査の重要性を示したことから臨床的意義は高い。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるのに値するものと認める。

以 上

令和6年2月14日